

徳島県産科セミオープンシステムについて

産科セミオープンシステムとは、地域における医療資源の有効活用や安全性の向上を目的とし、妊婦健診は診療所、分娩は病院と役割を分担して行うものである。なおオープンシステムと異なり、分娩などで病院施設に入院した場合、治療方針の決定は病院医師が行う。

1. 対象：ローリスクと考えられる妊婦

多胎妊娠、前置・低値胎盤、活動性のある合併症妊娠、子宮内胎児発育不全、切迫流早産などハイリスク妊娠は除外する

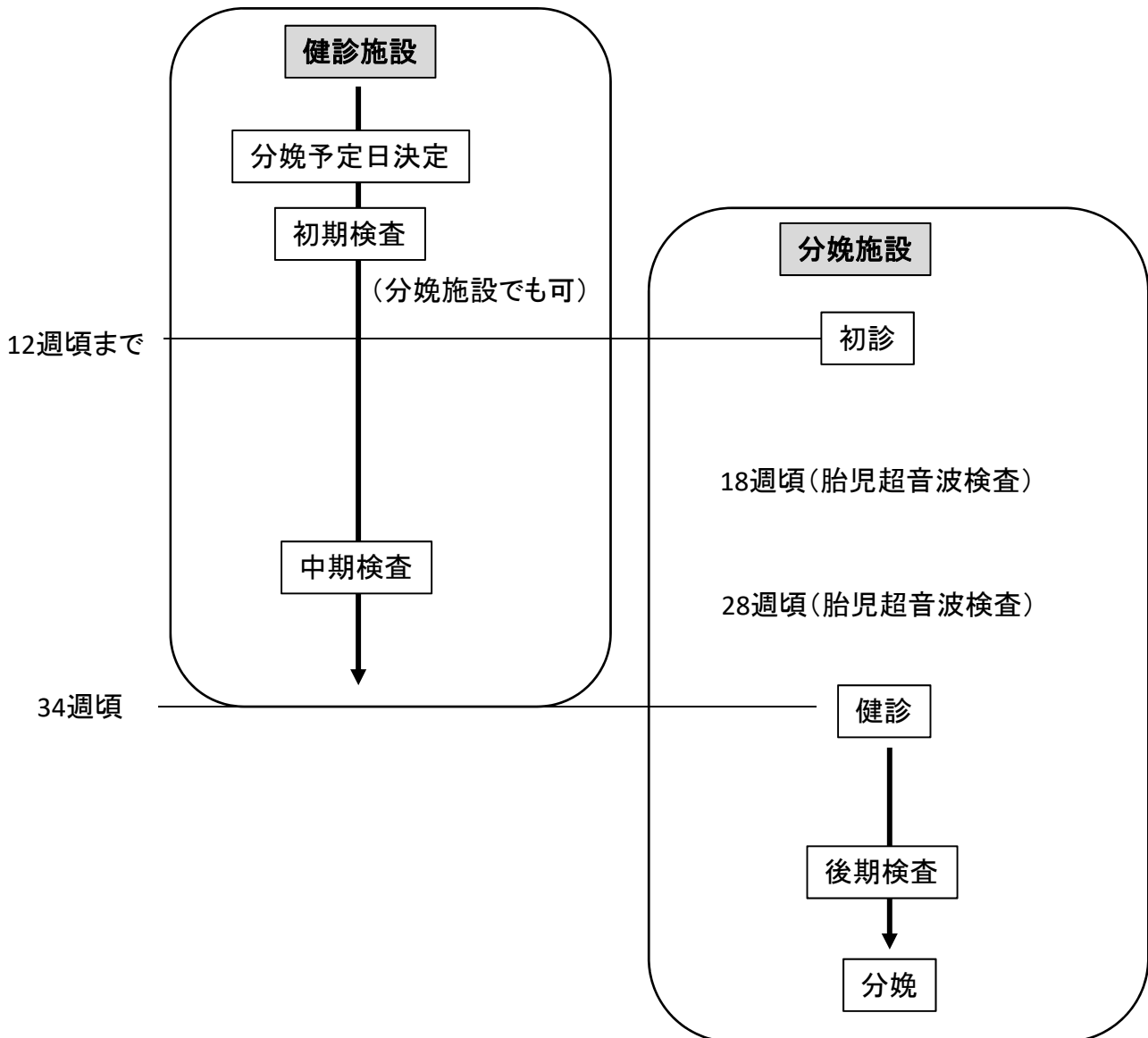
2. 診療施設

- ・ 健診施設：妊婦健診を行う施設（主に診療所）
- ・ 分娩施設：分娩を取り扱う施設（主に病院）

3. システムの運用（あくまでモデルであり、分娩施設と健診施設間で相談し運用する）

- 妊娠初期（12週頃まで）に健診施設から分娩施設に妊婦を紹介する
夜間・休日診療が可能な健診施設では、初期以降でも可
初期検査は健診施設で行う（分娩施設でも可 紹介週数を考慮して行う）
- 健診は、妊娠34週未満は健診施設で行い、34週以降は分娩施設で行う
- 共通診療ノートに診療を記録し、検査結果を貼付する。
- 妊娠中には以下の項目の測定は必須とする
初期検査
 - ・ CBC, HBs Ag, HCV, HTLV-1, 梅毒, 風疹, 血糖, 血液型, 不規則抗体
 - ・ 子宮頸部細胞診中期検査（24～28週）
 - ・ CBC, 血糖（随時もしくは50g GCT）後期検査
 - ・ CBC, GBS
- 胎児超音波検査を18週前後と28週前後に行うのが望ましい
必要であれば分娩施設等で行う
- 健診施設で対応が困難な緊急対応（夜間・休日診療を含む）は分娩施設が行う。
受診に際しては、母子手帳と共通診療ノートを持参する。
- ハイリスクとなれば分娩施設での管理に移行する
- 分娩施設ではローリスク妊婦に対しセミオープンシステムの情報提供を行う

産科セミオープンシステム（モデル）



- 妊娠初期(12週頃まで)に健診施設から分娩施設に妊婦を紹介する
- 夜間・休日診療が可能な健診施設では、初期以降でも可
- 初期検査は健診施設で行う(分娩施設でも可 紹介週数を考慮して行う)
- 健診は、妊娠34週未満は健診施設で行い、34週以降は分娩施設で行う
- 共通診療ノートに診療を記録し、検査結果を貼付する。
- 妊娠中には以下の項目の測定は必須とする
 - 初期検査
 - ・CBC, HBs Ag, HCV, HTLV-1, 梅毒, 風疹, 血糖, 血液型, 不規則抗体
 - ・子宮頸部細胞診
 - 中期検査(24~28週)
 - ・CBC, 血糖(随時もしくは50g GCT)
 - 後期検査
 - ・CBC, GBS
- 胎児超音波検査を18週前後と28週前後に行うのが望ましい
- 必要であれば分娩施設等で行う
- 健診施設で対応が困難な緊急対応(夜間・休日診療を含む)は分娩施設が行う。受診に際しては、母子手帳と共通診療ノートを持参する
- ハイリスクとなれば分娩施設での管理に移行する
- 分娩施設ではローリスク妊婦に対しセミオープンシステムの情報提供を行う